

JAバンク新潟における地域密着型金融の取組状況（令和元年度）

JAバンク新潟（県下23JAと新潟県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、「JAバンク新潟中期戦略」に基づき、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

令和元年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

《目次》

1 農山漁村等地域の活性化のための金融支援	・・・・・・・・P 2
2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援	・・・・・・・・P 5
3 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等 地域育成への貢献	・・・・・・・・P 10

1 農山漁村等地域の活性化のための金融支援

J Aバンク新潟は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク新潟は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

令和2年3月末時点のJ Aバンク新潟の農業関係資金残高^(注1)は70,695百万円(うち農業経営向け貸付金38,960百万円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は16,624百万円を取り扱っています。

(注1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

(注2) J Aバンク新潟が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 (単位：百万円)

種類	令和2年3月末現在
農業	38,960
穀作	20,505
野菜・園芸	2,348
果樹・樹園農業	923
工芸作物	148
養豚・肉牛・酪農	1,256
養鶏・鶏卵	361
養蚕	—
その他農業	13,416
農業関連団体等	31,734
合計	70,695

(注)

1 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。

2 「農業関連団体等」には、J Aや全農とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 (単位：百万円)

種類	令和2年3月末現在
プロパー農業資金	58,645
農業制度資金	12,049
農業近代化資金	5,635
その他制度資金	6,414
合計	70,695

(注)

1 「プロパー農業資金」とは、J Aバンク原資の資金を融資しているものをいいます。

2 「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJ Aバンク新潟が転貸で融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJ Aバンク新潟が低利で融資するものを対象としています。

3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

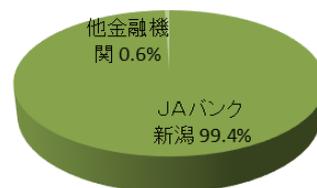
種 類	令和2年3月末現在
日本政策金融公庫資金	16,624
その他	—
合 計	16,624

(注) JAバンク新潟では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

JAバンク新潟は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【新潟県の農業近代化資金残高】 (令和元年12月末時点)

新潟県内総貸付残高	5,344 百万円
うちJAバンク新潟残高	5,313 百万円
〔出所：新潟県農林水産部経営普及課〕	



農業近代化資金 県内シェア
(令和元年12月末時点)

(2) アグリビジネス投資育成株式会社等によるファンドの活用

JAバンク新潟では、お客さまの資金調達手段の一つとして、農業法人育成のための資本供与の仕組みである「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」、「プロパー投資」による出資を提案しています。

令和元年度には、県内農業法人の資本調達ニーズに対応するため、「アグリシードファンド」で1先、4百万円、「プロパー投資」で1先、10百万円の出資を実施し、出資総額は15先、125百万円となりました。

【農業者向けファンド取組実績(令和2年3月末)】

(単位：先、百万円)

ファンド名	先数	出資額
アグリシードファンド	12	80
担い手経営体応援ファンド	2	35
プロパー投資	1	10
合 計	15	125

(3) 担い手のニーズに応えるための取組み

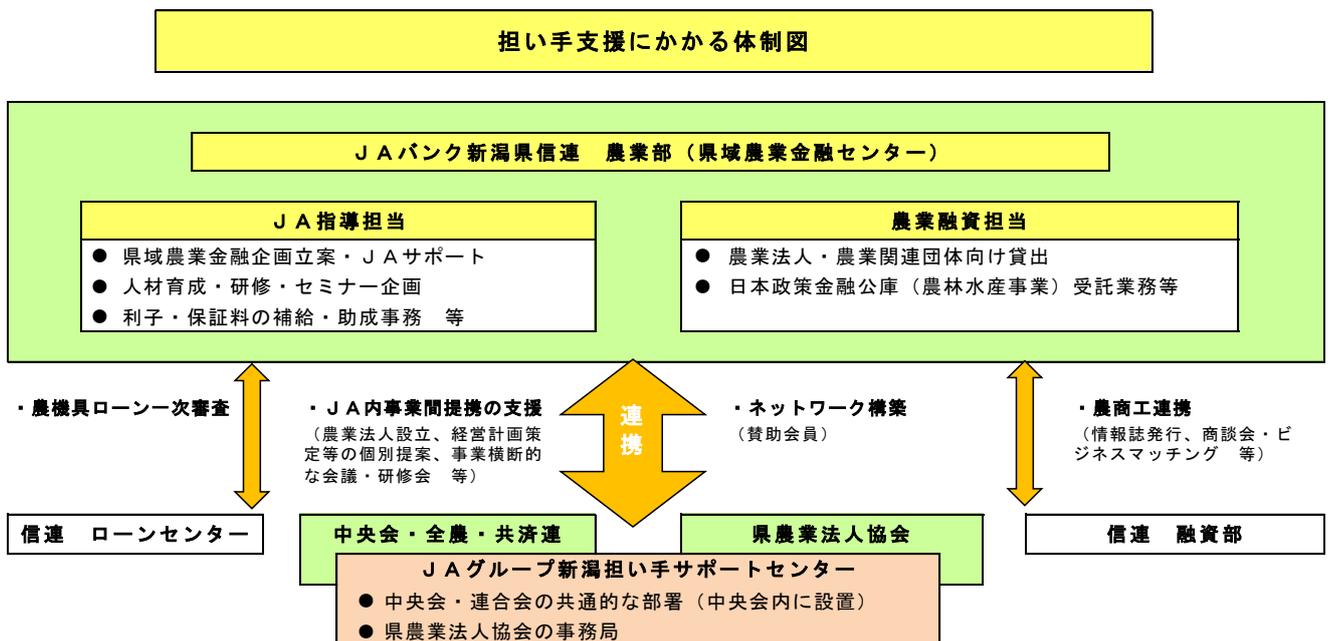
J Aバンク新潟では、地域の農業者との関係強化を目的とした体制整備に取り組んでいます。

信連では、農業部を「**県域農業金融センター**」と位置づけ、J Aの指導・サポート機能と農業法人等への融資相談機能を併せ持つことで、一元的な取組みを進めています。J Aの体制整備や人材育成を支援するとともに、J Aと連携した協調融資などにも取り組んでいます。

県下23 J Aでは、担い手への訪問・資金提案活動を中核的に担う「**農業融資相談員**」をJ A本支店（所）に206名配置し、また、農業融資の実務を統括する「**担い手金融リーダー**」を35名配置しています。

農業融資相談員等の相談対応力向上を目的に、J Aバンク独自の農業融資資格制度である「**J Aバンク農業金融プランナー**」の資格取得を進めており、県下合計で490名が資格を有しています。また、日本政策金融公庫が実施主体となる「**農業経営アドバイザー研修・試験**」にも取り組み、県下合計で106名が資格を有しています。

また、J Aが総合力を発揮し農業者の多様なニーズに応えていくため、信連を含めた中央会・連合会の共通的な部署である「**J Aグループ新潟担い手支援室（略称：担い手サポートセンター）**」が中心となり、農業法人設立、経営計画策定および事業承継の個別提案活動や事業横断的な会議・研修会の開催等を通じ、J A内事業間連携の強化を支援しています。



2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援

J Aバンク新潟は、担い手をサポートするため、ライフサイクルに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 「にいがた農業応援ファンド」による助成

J A自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を不断の取組みとしていくため、平成28年度からの3年間に続き、令和元年度から令和3年度の3年間における農業者への支援パッケージとして、「にいがた農業応援プログラム」を展開しています。

中でも、「にいがた農業応援ファンド」について、令和元年度は、担い手への支援を更に強化するため、園芸生産の規模拡大や新たに園芸生産に取り組む担い手等への支援事業として「園芸生産拡大支援事業」を創設しました。また、「親元就農応援事業」を「新規・親元就農応援事業」に変更し、助成対象に新たに就農する農業者を追加したほか、「商談会等販路拡大の活動支援事業」を継続し、農畜産物の販路拡大に取り組む農業者を支援しました。



にいがた農業応援ファンドを活用し、効率的な防除作業のための機械を導入

【にいがた農業応援ファンド取組実績（令和元年度）】

(単位：件、百万円)

事業名	申請件数	申請額	採択件数	採択額
園芸生産拡大支援	216	48	216	48
うち担い手向け	212	39	212	39
うち産地向け	4	9	4	9
新規・親元就農応援	68	13	68	13
商談会等販路拡大の活動支援	34	5	34	5
合 計	318	67	318	67

(2) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク新潟では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、「青年等就農資金」および「新潟県新規参入者経営安定資金」を取り扱っているほか、J Aバンク新潟独自の「新規・親元就農応援事業」を展開しています。

【新規就農者をサポートする資金の取組実績】(単位：件、百万円)

資金名	令和元年度		令和2年3月末 残高
	実行件数	実行金額	
青年等就農資金	13	51	341
就農支援資金	—	—	20
合 計	13	51	361

(注) 平成26年4月1日付の法改正により、就農支援資金の新規取扱いは終了となり、新たに青年等就農資金が創設されました。

(3) 食農バリューチェーン構築による農業・地域の成長支援（商談会・ビジネスマッチング）

J Aバンク新潟は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大等の農商工連携に取り組み、「農業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。

【商談会の開催】

ビジネスマッチングを通じた農商工連携および6次産業化の推進を目的として、県内外で開催された商談会に参画しました。



北信越商談会の様子

〈令和元年度 商談会開催状況〉

商談会名	開催日	主催者	J Aバンク 新潟の 関わり方	参加団体数	総来場者数	内容（成約状況 等）
にいがた 食と総合 ビジネス商談会	令和元年 5月22日	(株)第四銀行 (株)北越銀行	共催者として 信連が参画	206 団体	2,800 名	信連の取引先 等 26 先がブ ース出展もしく は個別商談会 に参加
うまさぎっしり新潟 食の大商談会	令和元年 9月6日	NICO、新潟県 信用保証協 会、新潟県内 金融機関	主催金融機 関の一つと して信連が 参画	95 団体	1,322 名	信連の取引先 や J A 等 11 先 が参加
J A・J Fグループ 北信越商談会	令和2年 1月28日	J Aバンク J Fマリン バンク	J Aバンク として主催	35 団体 (セラー) 42 団体 (バイヤー)		セラー7先、バ イヤー4先を招 致

【情報誌「S o l e ! にいがた」の発行】

農商工連携を促進する一環として、フリーペーパー形式の情報誌「S o l e (そーれ) ! にいがた」を平成22年7月に創刊、以来年4回発行しています。

この情報誌では、県内の農業や産業に関する幅広い情報の提供により、「農と食」を基軸としたコミュニケーションを通して、農業生産者・J Aグループと地域の企業、さらには広く地域の皆さまとの結び付きを強め、新たなビジネスチャンスを生み出すきっかけづくりを目指しています。

※県内のJ A窓口や直売所、道の駅、スーパー等で無料配布しています。

※バックナンバーは信連ホームページでご覧いただけます。



S o l e ! にいがた

(4) 講演会・セミナー等の開催

J Aバンク新潟では、農業法人等の経営安定化支援や参加者同士の情報交換、ネットワークづくりの場を提供することなどを目的として、セミナーや個別相談会を開催しています。また、融資のお取引先や農業法人等を招き、講演会やセミナーを開催し、異業種間の交流を促進しています。

【令和元年度 講演会・セミナー等開催・参画状況】

名称	開催日	主催者	対象者	参加者数	内容
第 32 回信連融和会 定例総会講演会	令和元年 7月 31日	信連	信連融資 取引先	69 社 (70 名)	演題：「夢の実現…中小企業の 空への挑戦」 講師：(株)アオキ 取締役会長 青木豊彦 氏
第 12 回 経済・金融セミナー	令和元年 11月 6日	信連	信連融資 取引先	52 社 (59 名)	演題：「2020 年の経済見通し」 講師：パークレイズ証券(株) 調査部長 チーフ・エコノミスト 山川哲史 氏
第 13 回農業法人 経営者セミナー	令和 2 年 2月 12日	信連	県下農業法人 および J A 等	229 名	【第一部】 演題：「水稲と園芸との経営の 複合化およびスマート 農業の導入による作業 効率化・省力化に向けた 取組み」 講師：(株)ふるさと未来 代表取締役 高橋賢一 氏 【第二部】 演題：「農業法人における労務 管理の留意点」 講師：すずき労務経営コンサル タンツ 鈴木大輔 氏

(5) 事業性評価を通じた農業者の経営課題把握・課題解決ソリューションの提供・蓄積
 信連では、農業所得の向上および農業者の満足度向上に向けた取組みとして、地域の中核的な役割を担う農業者に対し、業種特性や外部環境・内部環境を踏まえたヒアリングを行い、経営・事業の課題解決に向けて、JAや関係機関、専門家等と連携し、適切なソリューションの提供に向けて取り組んでいます。

今後も、ソリューション提供先の課題解決に向けて進捗状況を確認し、取組事例を蓄積していきます。

【具体的取組事例】

業種	施設園芸（観光農園含む）、農家レストラン、直売所
概要	<p>施設園芸を中心に農家レストランや直売所など事業の多角化を進めている農業法人に対して、経営課題や将来展望等をヒアリングし、課題の抽出・整理を行い、解決に向けたソリューションの提案を行いました。</p> <p>まず、経営者へのヒアリングを通して、事業の多角化・生産規模拡大を進めていく中での労働力不足や直売所・農家レストランの売上拡大に向けた課題を共有しました。</p> <p>労働力不足への課題に対しては、社会保険労務士と連携し、安定した通年雇用の確保に向けた対策について検討を開始したほか、行政における農業への就業促進にかかる事業の紹介を行いました。</p> <p>また、直売所や農家レストランの売上拡大への取組みとしては、商品PRおよび市場ニーズの情報収集機会の確保に向けて、各種商談会やビジネスマッチングにかかる情報提供を行うとともに、にいがた農業応援ファンド「商談会等販路拡大の活動支援事業」による出展支援の紹介を行いました。</p> <p>引き続き、経営者との対話を通じて、解決すべき課題の共有と最適なソリューションの提供を行っていきます。</p>
成果（効果）	<p>労働力の安定的な確保により生産性向上を図るほか、商談会やビジネスマッチング等を活用した、農産物およびレストランのブランド力向上・売上高の伸長に期待しています。</p>

(6) 被災者等への支援

J Aバンク新潟では、各種自然災害等の被災者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じた償還条件の緩和等に対応しました。

【災害対策資金の取組み】

(単位：件、百万円)

取組事例	J A名	内容	件数	貸付実行金額
令和元年度 緊急農業経営 安定対策資金	J Aバンク新潟	猛暑による米の品質・収量の低下により収入が減少した農業者に対し、J Aグループ新潟からの利子補給による低利の資金を創設	216	324
令和元年度 災害復旧支援 資金	J Aバンク新潟	台風により被害を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟からの利子補給による低利の資金を創設	32	58
令和元年度 米特別対策 資金	J A北魚沼	猛暑等による米の品質・収量低下により収入が減少した農業者に対し、低利の資金を創設	19	11
豚コレラ対策 緊急支援資金	J A十日町	豚コレラ感染防止のために野生動物の養豚農場への侵入を防止する防護柵を設置する農業者に対し、低利の資金を創設	2	14
合 計			269	407

(7) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク新潟では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【令和元年度 農業者の経営改善支援等の取組実績】

(単位：先)

		期初経営 改善支援 取組先 A	Aのうち再 生計画を策 定した先数 a	Aのうち期 末に債務者 区分がラン クアップし た先数 b	Aのうち期 末に債務者 区分が変化 しなかった 先数 c	再生計画策 定率 = a / A	ランクアッ プ率 = b / A
正常先 ①		13	10		12	76.9%	
要 注 意 先	うちその他要注意先 ②	64	26	13	45	40.6%	20.3%
	うち要管理先 ③	4	0	0	3	0.0%	0.0%
破綻懸念先 ④		37	6	6	30	16.2%	16.2%
実質破綻先 ⑤		28	11	1	26	39.3%	3.6%
破綻先 ⑥		0	0	0	0	—	—
小計 (②～⑥の計)		133	43	20	104	32.3%	15.0%
合 計		146	53	20	116	36.3%	13.7%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は令和2年3月末時点のものです。

(8) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク新潟では、農業者の経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【令和元年度 負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	令和元年度 実行件数	令和元年度 実行金額	令和2年3月末 残高
農家経済再建資金（負債整理資金）	4	15	976
畜産特別資金	—	—	42
土地改良負担金対策資金	4	147	575
農業経営負担軽減支援資金	—	—	47
農家負担軽減支援特別資金	—	—	—
その他	—	—	36
合計	8	162	1,676

(注) 1 農業経営者負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

2 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換え資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

3 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク新潟では、地域と農業者の結び付きを強化し、地域を活性化するため、また地域への社会貢献のため、次の取組みを行っています。

(1) にいがた農業応援定期貯金「ほほ^{えみ}笑味」の取扱い

県下23 J Aでは、個人のお客さま向けに、新潟県内のJ A直売所やAコープ等で利用できるクーポン券を特典とした「にいがた農業応援定期貯金(ほほ^{えみ}笑味)」を販売しました。(販売期間は令和元年5月7日～令和元年9月30日でしたが、ご好評により早期に募集金額に達し、7月31日で販売を終了しました。)

クーポン券を使って、新潟県の豊かな大地で育った農作物を購入いただき、そのおいしさを実感していただくことで、お客さまの満足度をより一層高めるとともに、県産農畜産物の消費拡大、新潟県農業のさらなる発展に貢献していきます。

(2) J Aバンク新潟食農教育応援事業の展開

J Aバンク新潟では、将来を担う子供たちの農業や自然環境、金融経済に対する理解を促進することを目的とした「J Aバンク新潟食農教育応援事業」を展開しています。

主な取組みとして、J A等による子どもを対象とした食農教育活動への助成事業や、補助教材「農業とわたしたちの暮らし」(小学校高学年向け、特別支援学校生向け)の無償配布を実施しています。小学校高学年向け補助教材は県下の小学校452校へ22,940部、特別支援学校生向け補助教材は県下の小学校・特別支援学校22校へ309部を贈呈し、各学校において授業等に活用されています。

また、県下 J A では、創意工夫のうえ、J A 自己改革の目標の一つである「地域の活性化」の取組みとして、地域に根差した食農教育活動に力を注いでおり、令和元年度においては、県内全 23 J A が当事業を活用して食農教育活動を計画・実施しました。

【「J A バンク新潟食農教育応援事業」を活用した各 J A の活動内容】

J A 名	活動名	活動内容
J A 新潟市	農業体験作文コンクール	小中学生・特別支援学校生を対象に、農業体験学習「学校教育田」の体験に基づく作文コンクールを実施。
J A かみはやし	紙コップで縁結び	親子を対象に、紙コップを使ったおにぎりづくりを実施。
J A にいがた岩船	J A あぐりスクール	小学生を対象に、製塩所と養鶏農家を見学し、調理実習、味噌作りを実施。
J A 北蒲みなみ	食農教育出前授業	こども園で「食」や「農」についての紙芝居やクイズなどの出前授業を実施。
J A ささかみ	学童農園	小学生を対象に、稲作体験学習を実施。
J A 北越後	親子料理教室	小学生親子を対象に、地場産畜産物を使った料理教室を実施。
J A 胎内市	親子田植学習	園児・小学生親子を対象に、田植え体験学習を実施。
J A 新潟みらい	親子あぐりスクール	小学生親子を対象に、管内特産品の定植・収穫体験を実施。
J A 新津さつき	昔ながらのお米づくり体験	園児・小学生親子を対象に、新潟市有形民俗文化財「はさ木並木」を使い、手作業で行う稲作体験を実施。
J A 越後中央	農業体験スクール	園児・小学生を対象に、学校田や教育畑の農業体験学習を実施。
J A 佐渡	バケツ稲づくり体験	園児・小学生を対象に、バケツでの稲作体験学習を実施。
J A 羽茂	イモ掘り	園児を対象に、地域の転作田にてさつまいも掘り体験学習を実施。
J A にいがた南蒲	なんかん育ちの元気スクール	小学生親子を対象に、年 4 回のスクール型農業体験において、野菜の種まき、収穫、調理実習を実施。
J A 越後ながおか	小学生向け料理本配付	J A 独自で小学生向けの料理本を作成し、小学生に配付。
J A 越後さんとう	サマースクール	小学生を対象に、農産物の収穫体験と地場産野菜を使った調理実習を実施。
J A 越後おぢや	農業体験学習出前授業	小中学生を対象に、野菜苗の移植体験の出前授業を実施。
J A 北魚沼	J A 親子タウン	小学生親子を対象に、関東方面で魚沼農産物の販売体験や食品検査を見学する 1 泊 2 日のツアーを実施。
J A みなみ魚沼	あぐりスクール	小学生を対象に、醤油造り、野菜の定植・収穫体験、給食センターの見学、調理体験などを実施。
J A 十日町	どろんこキッズスクール	小学生を対象に、農業体験や調理体験を実施。

J A名	活動名	活動内容
J A津南町	どろんこ学習	小中学生を対象に、農業体験学習を実施。
J A柏崎	稲刈り体験	小学生親子を対象に、学校田の稲刈り体験を実施。
J Aえちご上越	ちゃぐりん道場	小学生親子を対象に、料理講習やプランター栽培体験などを実施。
J Aひすい	親子そば打ち体験	小学生親子を対象に、地元で生産したそば粉を使ったそば打ち体験と試食会を実施。

〈J Aにいがた南蒲 なんかん育ちの元気スクール〉



トウモロコシの収穫



収穫した野菜を使った調理実習

(3) 文化的・社会的貢献活動

J Aバンク新潟では、地域社会の一員として、文化、スポーツ、社会福祉、環境などの分野で幅広い地域貢献活動を展開しています。

○公益信託「J Aバンク新潟県信連創立 50 周年記念・ホームヘルパー支援基金」

新潟県内の社会福祉法人やボランティア団体等を助成対象者とし、ホームヘルパーの活動および当該活動を支援する設備等に対し助成を行っています。

○「がんの子どもを守る定期貯金」の受入を通じた、がんの子どもを守る会への寄付金の贈呈

J Aバンク新潟では、貯金の受入を通じた小児がん患者への支援を目的として、平成 29 年度より「がんの子どもを守る定期貯金（ゴールドリボン定期貯金）」を取り扱っています。

多くの皆さまから趣旨にご賛同いただいた結果、令和元年度は 1,600,842 円を公益社団法人がんの子どもを守る会に寄付することができました。

○エコキャップ運動への参加

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に参加しています。

○環境保全への取組み

ビル内の節電対応や、「クールビズ」「ノー残業デー」の実施など、環境保全を意識した取組みを積極的に行っています。

また、JAバンク新潟では、地球温暖化防止や、地域の森林整備等の促進、豊かな自然環境の保全を支援することを目的に、平成 28 年度からカーボン・オフセットにも取り組んでおり、「にいがた農業応援定期貯金（ほほ笑味）」のクーポン券に、調理時に排出する一食分の CO₂ 吸収量を付与することで実施しています。オフセットの手段として「トキの森クレジット」を購入し、「トキの森プロジェクト」による新潟県の森林整備を支援するとともに、人とトキが共生する地域づくりを応援しています。

※カーボン・オフセットとは暮らしの中で出てしまう CO₂ を森林整備等 CO₂ 吸収活動の支援により埋め合わせることです。



○「スポーツ教室・食育教室」への特別協賛

「スポーツを通じた青少年の健全育成」の趣旨に賛同し、アルビレックス新潟(サッカー) および新潟アルビレックスBB (バスケットボール) が開催する「スポーツ教室・食育教室」への特別協賛を行っています。



アルビレックス新潟による親子食育教室



新潟アルビレックスBBによるバスケットボール教室

○「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛

地域の文化振興を応援するため、公益財団法人新潟市文化振興財団が主催する「松竹大歌舞伎」公演への特別協賛を行っています。

なお、公演には日本の伝統文化に触れる機会を提供することを目的に、新潟県内の留学生ならびに高校生・大学生を招待しており、令和元年度は 130 名の方からご鑑賞いただきました。

○役職員によるボランティア活動等への参加

新潟市が主催する地域清掃活動に毎年参加し、地域とのかかわり合いを大切にしています。令和元年度は各地で開催された清掃活動に延べ 113 名の職員が参加しました。

また、新潟県赤十字血液センターのご協力により、団体献血を年 2 回実施しています。令和元年度は延べ 107 名の職員が協力しました。

○地域行事への参加

「新潟まつり大民謡流し」等の地域行事に地域の
一員として積極的に参加し、地域の皆さまとの交流
を大切にしています。



「新潟まつり大民謡流し」に参加

以 上